# 横芝の碑（その十二）

## 噂に乗った碑

最近北清水の住人という方から「近くの神社に広報に載った栗山川の庚申様そっくりの石像が建っている。一度見ておいてはどうですか」という有線をいただきました。丁度一斉放送に入る直前だったのでお名前や社の名を聞き漏らしてしまいました。実は一ヶ月程前に「屋形西照寺にも同じ形の庚申様が建っている。」という話も耳にしていました。西照寺は永風永存の碑（このシリーズその八）が建っている寺であり、住職の小山俊海師にも知遇を得ております。また、英風永存の碑取材の折「この寺に海保漁村の生家の墓石が建っている」ということもお聞きしていましたので「先ず西照寺の庚申様にお目にかかり、漁村の生家の墓石も拝見したいもの」と再び西照寺の山門をくぐりました。

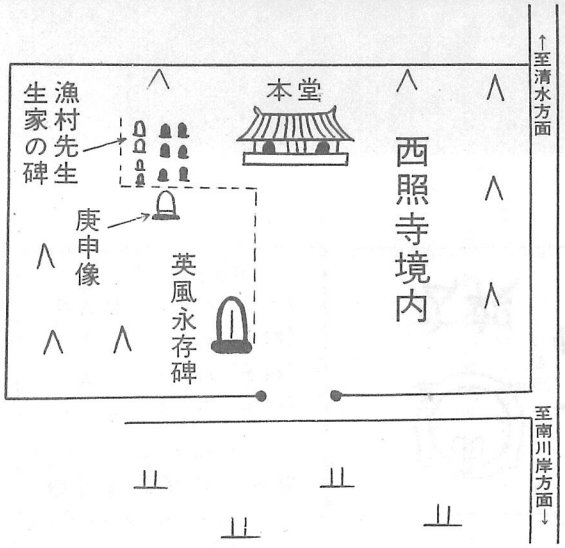
英風永存の碑の前を通り、本堂の手前を左に曲ると、すぐそれとわかる庚申様です「よく似ているでしょう。」という小山さんの言葉通り青面金剛の念怒相といえ足下に踏み付けた天の邪鬼から台座に刻まれた三猿公に到るまで本当によく似ていました。ただ異っているのは栗山川の庚申様は寛政五年の建立ですが西照寺の庚申様はそれより七年遅い寛政十二年となっているだけでした。共に五月建立となっているのも何か理由があるのかもしれません。若し、北清水の庚申様を訪ねることができたならば、その建立年月日等も調べて見たいと思います。

この庚申様は西照寺の境内の隅に埋もれていたのを堀り出して此々に祀ったものだということです。小山さんは「多分あの辺りは道路が有ったところでしょう」と言っていました。庚申様の少し奥に入った処に苔むした墓石が二基並んで建っていました。これが海保漁村縁りの墓石です。郷土の偉人誕生の地としては、その遺品遺跡に乏しさを感じていた矢先でしたから少なからずこの墓石に心をひかれ、戒名等を写している中に不思議なことに気がつきました。二基に刻まれた戒名の二霊が全く同じことでした。一基には法乗院歓楽道喜信士、泉流院法悦貞性信女、明和七庚寅五月十一日、施主海保文五郎とあり、別の一基には泉流院法悦貞性信女、と同一の戒名の他に春霞暁夢信士という戒名が刻まれ、建立は同じ年月で施主は海保文右エ門となっています。同じ戒名が刻まれているということは或いは一基は墓石というよりは塔婆に類するものかもしれません。

海保漁村は若くして故郷を離れ名声が挙るにつれて身辺も忙しくなり、殆んど故郷を訪れることもなく、その墓も江戸に有るという具合で、この石碑の戒名の人も漁村とどういう縁りを持つものであるかは残念ながら詳かでないということです。しかし、漁村の生家の屋号を文右エ門と称していたことや、二基の石に刻まれた戒名がその文右エ門宅のものであることは西照寺の過去帳（文右衛門宅は西照寺の壇家になっています）によってもわかります。前にも記しましたが、あれだけの学者でありながらその誕生の地横芝には後世の人が建立した海保漁村誕生の地の碑があるだけですから、この二基の碑が持つ意義は大変なものだと思います。

今月は皆様からいただいたご連絡に基づいて屋形西照寺の三基の碑を御紹介致しました。

写真、二つ並んでいるのが漁村ゆかりの石で、向って左が文五郎右には文右衛門と施主の名が刻んであります。別の一枚は、栗山川畔のものに瓜二つの庚申様です。

（本稿取材に当り西照寺住職小山俊海師に再度の御協力をいただきました）

給食センター小沢所長寄稿